

9. 沖縄県宜野湾市現地調査実習

京都府立大学文学部地理学研究室

地理学研究室では、地理学実習・地理学演習の一環として、沖縄県の1市町村を選び、毎年、調査実習に赴いている。今年度は宜野湾市が調査地となった。

調査日時 2019年10月27～31日

参加者 佐野将大、篠原光、鈴木更紗（以上、3回生）、伊藤美梨子、奥谷慎也、菊川歩夢、田村友希（以上、4回生）、小川大地、竹内祥一朗（以上、博士前期課程）、稲穂将士（京都府立丹後郷土資料館）、奥谷三穂（共同研究員）、上杉和央、藤本仁文（以上、教員）

調査内容 田芋について（佐野）、湧水施設について（篠原）、郷友会について（鈴木）、慰霊碑調査（全員）ほか

個人調査では、3回生が不慣れな中、聞き取り調査や現地調査を実施し、成果を上げた。ご協力いただいた宜野湾市の皆さまに深く感謝申し上げたい。また、慰霊碑調査においては、宜野湾市域のすべての慰霊碑について、3班に分かれて悉皆調査を実施した（写真1）。

なお、4回生以上のメンバーは2019年に重要文化的景観に選定された今帰仁村今泊地区についての見学調査をおこなった。

その他、特筆すべき点として調査期間中に首里城火災が発生し、地域の歴史文化のシンボルを失うことの意味を現地で体感することになった。（上杉和央）



写真1 調査風景（慰霊碑調査）